

仲間と心に残る運動会にしよう

～一人ひとりができることを探そう～

教科・領域 総合的な時間、体育

周南市立徳山小学校 6 学年

キャリア教育の観点

この取組は、学校行事である運動会を、単なる年中行事の一つにせず心に残る価値ある成長できる行事ととらえ、3つの項目から自分たちを見つめ、振り返ることで自分たちのよさを実感するとともに、徳山小学校の最上級生としての自覚を深め、協力して働くことの素晴らしさを実感させる活動です。

- ① 出場種目で、今何を努力すべきか考え実行する場とする。
- ② 係の仕事で、望ましい勤労観を育む。
- ③ 役割（指揮、あいさつ、プラカード等）・ボランティア活動で、望ましい勤労観と自己の生き方を考える機会とする。

【自己理解・自己管理能力】【人間関係形成・社会形成能力】【課題対応能力】

なりたい自分の発見

児童にワークシートを配布し、3つの項目に沿ってどのような姿を自分がめざしているのかしっかりと考えさせた。



主たる出場種目は、組体操、騎馬戦、徒競走、市民ばやしである。その中で、どのような姿を見せたいと願い、どのような気持ちで練習に臨み、どのように友達と協力したいと考えているのか明らかにした。特に組体操では、一人技から二人組、三人組、五人組、タワーと統一の美や集中力、団結力、信頼、友情が求められる。

児童の記述を以下に紹介する。

- ・緊張感を常に持って、ミスのないぶれない演技をしたい。
- ・自分の成長を、見ている人に感じさせることのできる演技をしたい。

- ・新たな一（壺）＜スタートの意味＞を刻むため、心を一つにしている姿を見せたい。
- ・練習の成果を発揮し、協力をしてカッコいい組体操をする。
- ・一つ一つをきれいに仕上げる。間違えたり失敗したりしても歯を見せない。
- ・あきらめず自信をもって最高の演技をし、みんなに感動を届ける。



係、役割の決定

係の仕事（全員）

応援係、演技係、得点係、繰出係、準備係、救護係、放送係にすべての6年生児童が所属する。どの係に所属したいかは、係紹介の後、本人のやる気を重視した選抜制で決定した。

児童の記述を以下に紹介する。



- ・応援係では、大きな声を出し、下級生をリードし運動会を盛り上げる。
- ・演技係では、すばやくきびきびとした行動で、下級生を支える。
- ・得点係では、正しく計算し公正な結果を出す。
- ・繰出係では、下級生の出場までのサポートを正確に行う。
- ・準備係では、演技を気持ちよくできるように完璧に準備する。
- ・救護係では、けがをした人に、優しく名前を聞くなどケアに努める。

- ・放送係では、運動会を盛り上げる立場として、正確に進行できるように練習をし、全力でがんばりたい。



役割・ボランティア活動（全員）

役割も本人のやる気重視で、立候補によって決定した。役割に選ばれなかった児童には、スローガンを書くという仕事を割り振った。石拾いは、全校児童対象の仕事だが、そこでも石拾いに込める思いを聞いた。児童の記述を以下に紹介する。

- ・石拾いでは、時間の限り多くの石を拾う。組体操やソーランでは、裸足で演技をするので足の裏が痛くならぬようにこまめに拾う。石拾いでも、下級生の手本となるように積極的に行動する。
- ・プラカードの役割では、早めに集合場所に行き、その学年を素早く正確に並ばせる。
- ・国旗・学年旗の役割では、胸を張って力強く行進する。
- ・成績発表、校歌指揮、開閉会式の言葉、ラジオ体操の役割では、あがらず冷静に堂々と振る舞う。
- ・スローガンの役割では、丁寧な文字で心をこめてスローガン「金よりも輝き放つ汗流せ」を書き、各クラスに運動会への心を届ける。

振り返り

運動会後に、自分がどんな成長をしたと思えるか振り返りをした。

- ・騎馬戦では、上に乗る人が滑って落ちないように他の土台の人の手をしっかり握って踏ん張ることができたと思う。
- ・全校の役に立つことができ、6年生として手本となれた。
- ・石拾いは、安全な運動会にするためにたくさんの石を拾った。
- ・石拾いでは、思ったよりたくさんあり、約40個拾った。
- ・1、2年生の世話をして、いい運動会をつくれた。
- ・プラカードでは、自分がずれると全校がずれるので、ちゃんとポイントを見てやった。
- ・みんなが最高の運動会を行えるように一生懸命に準備で書き、届けることができた。

- ・前日準備では、トイレ掃除を使う人の気持ちになってきちんとした。
- ・金よりも輝く汗を流すことができた。
- ・最高の運動会で、日本一の運動会になったと思う。

出場種目では、仲間と協力して、特に目立つ活やくがあった訳では無いけれど「金よりも輝き放つ汗流せ」というスローガン通りに、汗を流せたと思います。悔いは無く、終わったら、全力を出し切ったという達成感とすがすがしさで、胸が一杯になりました。

係の仕事では、得点係を任せられました。得点係は、皆に注目される訳ではあほせん。しかし、全校の皆が待っている得点の発表をどこおりにできるように、そして正しく公正な結果を導き出すために、仲間と確かめ合いながら最後まで正しく結果を出すことができました。

私の役割は、閉会式の校歌の指揮でした。初めはぎこちなく、歌声うら返ってしまったりしてしまいましたが、先生方が笑顔でとおしり、昼休みの練習の成果もあって、上がりっぱ指揮できました。

片づけ、準備は、暑くて疲れかけたが手伝って下さった先生方、保護者の方のおかげで、はかどりました。トイレそうじは、使う人のことを考えて、心をこめてそうじできました。片づけは感謝と奉仕の心で取り組むことができました。

私は、自分が成長したと実感できました。



まとめ

運動会を単なる行事とせず、キャリア教育からの視点を取り入れて仕組むことで、こうも変容するのかと実感した。最高学年としての行動を求めるにあたって、6年生児童すべてが、なりたい自分の姿をイメージして取り組むことで、練習中も本番も本気で真剣に取り組む、全力を出し輝くことができたことが何よりの成果だと思う。こうした取組を今後も続けることで、児童自らが、「今の自分が日本一の姿」だと自信をもって言えるようにしたい。